



北海道清里高等学校 学校運営協議会

コミュニティスクール通信

令和8年度第1号（令和8年6月15日発行）



【旧職員 牛島先生作 校舎からの斜里岳】

○清里高校のコミュニティスクールについて○

清里高校は、清里町からの財政支援、保護者や地域の方々との強い関わり、小・中・高の学校間の連携の体制が整っているという理由から、平成30年にコミュニティスクールとして、学校運営協議会を設置しました。その後、地域の人的・物的資源を活用し、地域の方や保護者との連携を一層深めながら、社会に開かれた学校づくりに努めています。

○第1回運営協議会が開催されました。○

- 1 日時： 令和8年6月10日（水）15：25～16：35 ※ この前に授業参観も実施
- 2 場所： 北海道清里高等学校 1階会議室、委員13名出席（2名欠席）
- 3 内容：
 - (1) 令和8年度協議会体制の承認
 - ・若松会長、長谷川副会長を中心とする組織体制及び3つの部会の構成が承認されました。
 - (2) 学校運営の状況説明
 - ・グランドデザイン ～ 札幌の有朋高校（T-base）との遠隔授業による教育課程の充実
 - ・R7年度進路状況 ～ 卒業生34名（大学10名、専門学校15名、就職8名、その他1名）
 - ・学校運営予算 ～ 灯油配分減に伴い維持活動費が一部減少したが、例年通り執行
 - ・熱中症対策 ～ 暑さ指数（WBGT）31以上での運動活動及び部活道の中止などを徹底
 - ・いじめ対応 ～ 初期段階で厳格に認知し対応（R7年度認知3件はすべて解決済）。また、5月アンケートの訴え2件も対応中
 - ・MA+CHプロジェクト ～ 3年次（最終年）、総合的な探究の時間を軸に地域課題解決を深化
 - (3) 清里高校の存続及び魅力化に向けた討議（グループワークによる意見交換）
 - ・再編基準（およそ入学者が20名未満）の確認と地域の中学校（清里、斜里、小清水）の現状
 - ・閉校事例（小清水）の教訓、平成30年度に閉校した小清水高校について、「高校生のいない街」は非常に寂しく、商業・にぎわい面でも損失が大きい。「無くさない方向でもっと努力できなかったのか」と今になって強く実感している。
 - ・魅力化・存続アイデアについて
 - ～「住居の確保と生徒募集」かつての山村留学を参考に、農協の事例等も模索しながら、道外からの生徒を受け入れるシェアハウスやホストファミリー等の住環境を整備する。
 - ～「特化型部活動の創設」ハードルを無視して夢を語るべき。「日本一の登山部」などを創設して全国募集をかけ、地域の登山経験者を指導者に巻き込む。
 - ～「子供目線の刷新」中学生や小学生にリサーチし、制服のデザイン変更（パーカー導入など）を含め、子供たちの自由な発想を大人が軽いフットワークで叶えていくスタンスが必要。
 - ～「総合探究の質の向上」大学（昨年度はお茶の水女子大、津田塾大）から地方インターンに学生が集まる時代。MA+CHプロジェクトの質を高め、大人の本気の仕事プロセスを高校生が学べる場になれば強力な魅力になる。
 - (4) 次回開催について

第2回学校運営協議会は、清里町の小中高合同で12月18日（金）に開催予定



【授業参観の様子】



【協議会の様子】

